

1982、8、20

義太夫

三拝・九拝・拍手・ほめ言葉

義太夫協会会長 吉川英史

義太夫協会々報
第25号

昭和57年8月20日
社団法人 義太夫協会発行
〒104 東京都中央区銀座
6-18-2 新編演舞場 B2
TEL (541) 5471

普段なんの気なしに使っている言葉が、よく調べると、大変な意味を持っていることがある。例えば、人に頼みにくいことを頼む時に、「三拝九拝した」というが、「何度も頭を下げる」と「くらいにしか考えないが、中国の古典によると、実には大変なことだということ」を、儀礼文化学会の例会で、国学院大学の名誉教授藤野岩友氏から教えられた。

九拝とは元来、中国の周代（紀元前一〇二七〜七七）に定められた九種の礼拝の法であって、九度礼拝することではない。「周礼」によれば、稽首・頓首・空首・振動・吉祥・凶拝・奇拝・褒拝・肅拝の九種の礼拝法を九拝というのである。

この九拝の二番目の「頓首」は、わたしなども手紙の末尾に「敬具」の代りに、書いたことがある。ところが、この「頓首」の本当の意味を知って驚いた。「稽首」が地に伏して、ゆるやかに頭を地につける拝し方であるのに対し、「頓首」は急激に頭を地にたたきつけるのである。藤野氏の説では、この「頓首」の原形は、頭額を物に激突させて自殺する中国特有の習俗から来たものと思われる。

——とのことである。

さて、四番目の「振動」は両手で相撃つことであるが、「魏志倭人伝」や唐初の「経典釈文」に倭人（日本人）が両手を打つことを書いている。古代日本の伝統的・代表的礼拝

の作法だったことがわかる。この「振動」は音を出す唯一の礼拝の法で、日本では「拍手」とか、「拍手」という。

拍手には二通りの目的がある。一つは、神を礼拝することである。今一つは人に対して、賞賛や同意の意志表示をすることである。

前者が日本の本来のもので、後者は西洋からの輸入である。福沢諭吉が慶応義塾の構内に演説館を造り、やがて帝国議事堂の内外で政談演説が活発になり、一方西洋の音楽家が来日して、演奏会を開くことが多くなるにつれ、西洋式の拍手が普及するようになった。この洋式拍手は、日本式拍手と違って、打つ回数が多く、打つ速度が速いのである。

さて、女流義太夫の世界では、お客はほめ言葉として、「ドースル ドースル!!」と掛け声を掛けたそうである。しかし、大正時代になると、「ドースル ドースル」の掛け声は次第に嫌われ、拍手や芸名や「日本一!!」などの掛け声が取って替った。

ところで、近年は芸人が客に拍手を強要することが多くなった。拍手の強要の元祖は、ラジオの実況録音のディレクターかも知れないが、あの場合は気分を盛り上げる効果はあっただろう。しかし、客に対しては失礼というべきである。もし必要なら、音響効果としての拍手のテープを数種類制作して、それを適当に使えばよいのではあるまいか。アメリカのテレビの喜劇には、その例が多い。

(2頁下段へ)

いあいさつ

義太夫節保存会会長 豊澤仙広
義太夫協会副会長

義太夫節御後援の皆様、益々御元気に
過ごされお喜び申上げます。協会も新し
い事務所が新橋演舞場内に出来上り、す
べて岡副社長の御引立てで、家賃も協会が
支払い出来るだけでよろしいと御親切な
御配慮、一同感謝感激致して居ります。

土佐広師が人間国宝の指定、私が勲四
等瑞宝章受賞ということで、大阪因会会
長大島市長の御引立てで、六月二十九日、
三十日の二日間、女子部の勉強会を祝賀
公演にして頂き、三越劇場は大入満員の
大盛況でした。耳が半分「イカレテ」い
る私の阿古屋三曲も、何とか無事で引退
どころか昔とちつとも変らぬ出来ばえと
役員の皆様からおほめの言葉を頂き、
今日まで舞台をつとめた甲斐があったと
まるで夢のような喜びでした。

東京でも九月二十日祝賀公演ときまっ
て居りましたが、八十三才耳の調子の合
いかねる舞台の苦労は大変なので、しば
らく休ませて頂く事をお願い致しました。
本当に淋しい思いですが、こればかりは
何とも仕方なく、今日まで長い間私のつ
たない芸を御ひいき下さいました皆様の
御後援に対して厚く厚く御礼申上げる次
第でございます。しっかり養生して、又
舞台に出られるようになりたいとそれを

楽しみに致している私の気持、御察し下
さいませ。

東京は国立の文楽を初め、女義の本牧
亭も客層がすっかり若返り、いつも人気
を招き義太夫ブームになりました。よき
会長を頂いている義太夫協会の真面目な
勉強ぶりを文化庁に認められ、義太夫教
室出身他の若い人達の勉強費として助成
金をいただける事になりました。この予
算のきびしい折に何と有難い事でしょ
うか。土佐広、仙広、女性として初の榮譽
、演舞場内に事務所の移転、重なる協会の
祝にと河野国声先生より百万円いただき
ました。入用品も整えた事務所を皆様に
も見て喜んで頂きたいと存じます。これ
からの仕事が大切なのです。七月の役員
会で色々と良いと思われる意見も出まし
た。忠と孝、義理と人情の近松文学の芸
術に命がけで取組んで居ります。義太夫
ファンの皆様に喜んで頂ける企画をと役
員一同、一生懸命です。

御ひいきの皆様、良き御意見をお聞か
せ下さいまして、義太夫節の益々発展す
るよう御指導、御後援の程伏してお願
い申し上げます。

暑さの折から御自愛下さいませ。

(1頁下段より)

国立演芸場ができて間のないころ、客が少
いころは、特に漫才師や落語家が拍手を強要
したものである。どうも、拍手が人気のパロ
メーターになっているらしい。わたしも同情
的な拍手で協力しながらも、内心こんなこと
を考えていた。

わたしなどは講演をする時、拍手を盛んに
してくださる客よりも、落着いてまじめに聞
いてくださる客の方が好きである。その方が
あり難い。わたし自身が芸を聴いたり見たり
する場合でも、本当に感心させられる場合は、
拍手できない。拍手などするような軽い気持
にはなれない。頭を下げて敬礼したくなる。
かつてNHKの邦楽技能者育成会の初期、邦
楽名士の模範演奏を拝聴する時間が設けられ
ていたことがあった。わたしは、受講生たち
にこういった。

「先生方の演奏が終った時、拍手はしない
で、みんな揃って敬礼をしよう。」

わたしは、毎回壇上から降りて、受講者一
同と敬礼したものである。

芸能人の皆さん、舞台の上から、客が感心
して聴き入っているかどうか、見分けが付き
ませぬか。肌でそれが感じられませぬか。

拍手がなかったら、少なかったら、自分の
芸に感服しているものと解し、自信を持って
いただきたい。——これは少数意見なりや、
否や。



竹本伊達子時代

人間国宝

土佐広師にきく



皆様すでに御存知のように、竹本土佐広師が人間国宝になりました。新聞等でもいろいろと報道されましたが、何といっても私共が最も身近な存在、そこで編集担当の竹本朝重がお宅にお邪魔してお話を伺って参りました。以下はそれをまとめたものです。(文責水野)

紙面の都合で今回は前半のみを掲載、続きは早急にお届けする予定です。

どうぞお楽しみに――

義太夫との出会い

大阪の九条って所で生れたんです。父が素義で、一所懸命お天狗さんの方でやってましてね。その当時、踊りだとか端唄だとか教えたらしいんですけど、踊りなんか最もタチが悪いんでそのままになってたけど、それが義太夫はチョイチョイ聞きかじってやっている、義太夫が合いそうだっていうんです。父がお稽古に行ってた勇造さんで、私が七、八才の時分に相当のおじいさんでした、頭が禿げ

ててね。そこへ十位の時分に連れて行って壺坂のサワリを教わったら踊りやなんかより一番向きそうだっていう訳で、そのお師匠さんでサワリばかり習ってたんだけど、そのうち「お父っあん、あんたはやめて娘仕込みなはれ」なんておだてられてね。十二の時に天下茶屋の伊達太夫(当時、後の土佐太夫)師匠の所へ行ったら、すぐにお師匠さんが伊達子って名前を下さったんです。それからずっとお師匠さん(伊達太夫)の所へ………当時尋常の三年生くらいでしたかしら、だけど学校より稽古の方が……

稽古

(自宅が)天満橋へ越したもので、天満橋から天下茶屋まで稽古に通うのには五時起き。天満橋から八軒屋をまっすぐに天神橋まで歩いて、それから天神橋筋を道頓堀まで、それから夷橋まで行って南海の所でやっと初めて

竹本土佐広師

おめでとございます

竹本土佐広師が、去る四月二日、文化財保護審議会より、重要無形文化財保持者(人間国宝)に認定されました。今後とも健康に留意され、義太夫界の為に御活躍下さいように。

事務所移転

〒104 東京都中央区銀座六―一八―二
新橋演舞場B2
電話(五四一)五四七

* 6月18日より右へ移転、早いものでもう二ヶ月余も経ちました。

お越しの節は、演舞場正面玄関右手奥に地下入口がございますので、その受付でお尋ね下さい。

豊澤仙広師

おめでとございます

豊澤仙広師が、去る四月二十九日、勲四等瑞宝章を受けられました。義太夫節保存のための永年の功労に依るものであります。今後とも後継者育成の為に御尽力下さいように。

電車が——二里近くあるでしょうね、それ歩いて、和歌山へ行く電車ね、あれに乗って三つめだと思いました。当時は天下茶屋は別荘地でボツンボツンとしか家がなかった。それからお師匠さんの所まで歩いてやっと七時頃になるのよね。で、お掃除して待って。その頃は八時から文楽が始まって、いろいろ出番は違いますけど、役の早い時は十一時頃舞台に上るんです。ところが、鶯を沢山飼ってましてね、何しろ鳥にエサをやるのが一人でないと言が違ってダメなんですってね、で、お師匠さんが一人で鶯にエサをやるのが朝の仕事。その時分、お茶だとかに凝ってらしたから先生が見えたりすると(舞台の)時間がきちゃって「今日は休みやで」という訳で……二階で本も見尽しちゃって退屈だし、廊下の足音がすると座り直したりして、その足音が又違った——そんなことが何回もあってね。やっと梯子段上って来たら女中さんが「今日はもう……」そういうことばかりだったの。三日目か四日目に一回お稽古して頂く位で、おかみさんが毎日無駄足して可愛想だっておっしゃったの。そしたら「何言うてんのや、家の敷居またいだら稽古になってるんやから」その時はまだそれが解らなくてどうして敷居またいだだけで稽古になってるのかしらんと思ってね、しばらくしてからやっと解りましたけど。まあ道歩いていても何しても頭に稽古して頂いているものがある訳ですね。看板に頭打ったって、ドブへ足つつこんだりしても、そんなこともあつ



竹本伊達太夫師

たけど、夢中になって道歩きながらやってる訳でしょうね。掃除しながらだっても片時も離れずやっている、それが勉強だって訳です。今日休みだと思ふとちょっと頭が軽い、そういう事でお師匠さんがおっしゃったんだなと、時が経ってから解るようになりました。私はね、自分でそんな事言っちゃおかしいけど、そんなにひどくお師匠さんに叱られたことないの、何処へ行っても。子供の時にはよく覚えてね。私ら十二、三の時分、みな五十二位だったのか、伊達若、伊達勝、伊達吉だとか年とった人が何だか覚えなくて、お師匠さんがかんしゃく起して——表へ出ると「伊達子はん、あんた覚えてるやろ、教えて」「あんた聞いて覚えてや」なんてよく言われたけど。余りおこられたことはないけど「お前はババミたいな浄瑠璃語るで。そんなババミたいな浄瑠璃語ってたら損や」そんなことはよく言われました。

学校へも行ってたんですけど、お稽古の方が嫌じゃなかったとみえて、源太夫師匠の所(新町橋)や、古親師匠のずっと相三味線だった清六師匠ね、そこへも行くんですね。

で稽古一杯なのよね、それで学校を勝手にやめちゃったんですよ。その当時は別に何にも言わなかったもの、そんな訳ですから学校は余り行っていないのよね。

南歌久

天満橋から天神さんの方へ来ると、立派な天神さんが祀ってありまして、その裏門の所に「南歌久」という寄席があったんです。小さな寄席ですけど、親方がとても頑固な人で、私、そこへ露払い語り(編集部注・一番最初)に出たんですよ。お師匠さんの所へ十二の時に行つて、一年か二年経った頃です。その親方が「ここはおなごの文楽っていう程、勉強する所や。お前はな、勉強したらえろうなるで」なんて言うわれてたんですよ。で、露払い語ってたんですよ。その頃、南にもう一つ、難波の和歌山へ行く電車が出る所にも寄席があつて、真打の人がかけもちして、いたんですよ。車なんかでなく電車でしょ、だから間に合わないんですよ。いつでも穴があく。あくどね、親方が「伊達ちゃん、ツナギに一寸やりや」。子供だから怖いことも何とも解らなくてね、お客様のいっぱい入っている所でツナギでやるんですよ。したら小さいものだからお客様がはめて下さるんですよ。と、五銭くれるの。で、五銭もらって門の中に入ると色々なもの売ってるんですよ。アメだとか、タイコ焼きたとか、買うのが楽しくてね。殆んど毎晩、しまいにツナギ太夫なんて名前がついちゃって。

播重・竹横

「播重」っていうのは、私が大阪を退いたのは大正七年ですけど、それからずっとありましたよ。一番後まであったのが播重ね。でも、播重がだんだん墮落しちゃってね、つまり、ひいきの肩入れってのか、ひいきの人が多くなって、その中に一人二人、謂ば素行の悪い人がいたんですよ。始まりは勉強どころだったんですけど、一番最初やってた方が亡くなったか何かで変ったんです。楽屋もだらしなくなっちゃって、評判も悪いし、家の父がうるさかったから、私は余り出ませんでした。団司さんも余り出てないみたいね。ずっと前から播重に対抗してたのが弁天座、弁天座のこっち角に竹田の芝居ってのがありましてね、竹田の横を入ったとこに「竹横」って寄席があったの、そこに私はよく出ました。「南歌久」のツナギ太夫で、ま、子供だから相当人気があったのを、南の竹横の親方が聞いて「今度ウチへ出なはれ」って訳なの。家のお父つあんが少し天狗になっていて「家の子はお父つあんか語らしまへんねん」そして「奥の方をやらせるから」って、それで一べんで上へ上っちゃって。そんな訳で十六七から真打になって、旅興行へも方々行きました。



大阪の寄席

そうね、席は南だけしかないんです。南に四軒、「播重」、「竹横」、「南陽館」、すぐになくなったけど「春木亭」……高座は一日に七、八高座でした。前の二、三人は十五分くらいで、十時頃までやってましたね。その当時、月給でしたけど、月給より御祝儀の方が多いのね。大阪の習慣としてね、お蜜柑に割箸をさして、割箸に御祝儀袋をはさんで、ひいきの太夫が出るとお客さんがお茶子さんに言ってる、その当時一円でいえば大変なんだけど、一円を入れてね、真中へ置けば三味線と半分ずつ、太夫さんだけだと見台の所へ置くんです。三味線だけに置く人もあるのよね、私のひいきの人がいると「あゝあんなことして、俺も出してやる」って又出してくれるのね。ええ、そう、語ってる最中ですよ。そんなのが殆んど毎晩あって。お茶子さんに一割あげるんですよ。毎晩御祝儀を出すような人は二階にいて、平場なんかにはいない、で二階にお札に行く訳なのね。出す人は多少色気のある人はあるだろうし、マ色気のある人の方が多いのね。本当に浄瑠璃だけ聞きに來る人にはうるさいだけだし、客席へは行っちゃいけないことになったのね。私は一寸変わりますからね、全然お札に行ったことないんです。で、手拭や名刺をお茶子さんに言ったり、そんなことしてたんす。そしてある時、お茶子さんが「余りあんた無愛想なよってな、一寸梯子段の所から首出してな、一寸お辞儀だけしとくんははれ」ってこう言

うたんです。で私も「あゝそう」て言うて梯子段へ上って行ったらね、入道に降りた人がいるんです。何も気がつかずに「いつも有難うございます」って。そして翌日の朝、番頭さんが朝早うに來てね「えらいすんまへんけど一寸警察まで行って貰わんなりまへんねん。何か知りまへんけど、あんたはんの名前で呼出しが来てますねん。私もついて行きませ」その時、清水町に警察がありましてね、何やいなと思っ行って行ったら、投書の葉書が五、六枚來てんすね。「うるさい。何でお客の所へサービスに行かんなんのや」それで他の行ってた人の名前が皆書いてあるんです。「私は初めて梯子段の所へ行っただけど、それ迄そんな事した事はないんです」と言ったら「そうだろう、お前さんの名前は一つも来ていない。皆に注意してくれ」っていうんで帰って來ただけど、「お客にサービスせな、お前たちはたっていかんのか」なんてボロクソに言う人もいました。あとで考えたら、すれ違ったのが刑事さんだったのね。私、腹立ってね、楽屋で、あんた方皆行くよって私代表で呼ばれたわよって怒ったことありましたよ。そう、今みたいにおばあさんばかり居ないから、みな若いきれいな人ばかりだったから……。

(つづく)

大正七年に上京されてから現在までのお話は、次号までお待ち下さい。

二つの御提案

常任相談役 河野 国 声

拝啓 社団法人義太夫協会役員の皆様及び会員の皆様方に申し上げたいことがございますので、卒直に述べさせて戴きます。

義太夫協会も法人化十一年余りを経て組織も内容も固まり、運営成績も着々と挙って誠にめでたいことと、役員初め御協力者皆様方の御努力に敬意を表する次第であります。

中でも義太夫教室の絶えざる努力から、若い義太夫の後継者ができつつあることは、何と申しても気強いことと思つて居ります。若い後継者の養成や素人義太夫趣味者の増加のため、何か良い方法はないものかと、私は六十年間思い続けて来たものですが、何しろ芸術として義太夫ほどむずかしいものはないので、流行歌のようなわけには参りません。

提案その一

現代のように何ごとも機械力を利用するにしくはない時、覚えるにも流行させるにも、録音器の利用法が第一だと思つて、カセットを何千巻も買ひ入れて、名人古靱・清六の至芸をはじめ有名故人の版權切れのものや、土佐広・団司等の本人御承諾の名人芸を少しでも多く世の中に普及流行させたいものと、義太夫愛好者に贈呈して参りました。

他の音曲や流行歌ならお金を払って買う人が沢山有るのに、義太夫のテープはただもらってくれる人を探すにも努力が要るのです。

義太夫は好きになれば聞くのも語るのも気がいになるほど熱心になるのに、義太夫人口の減少は淋しい限りです。

私はその芸の風味のよさ、深さを知って居るだけにこれを覚えて、時間も金もかけずに義太夫を楽しむことを若い頃から工夫して来しました。それが今で申せばカセットの利用法、昔は蓄音機のレコード稽古法なのです。

録音の方法あればこそ天才古靱とも名人清六とも今尚、毎日自由に逢えるし、自由にお稽古もして貰えるし、覚えてしまえば古靱太夫と合唱したり、古靱さんをそっちのけにしておいて、清六師の絃をたよりに独りで語ることまでできるという、馴れればいろいろの工夫もでき、自由に義太夫が楽しめるのです。

私の芸風は古靱太夫専門、三味線の仙広師は清六に最後迄師事して、今でも古靱清六のテープを毎日勉強せぬ日はないという熱心さですから、語りと絃がびったり合うのです。もし日本中の太夫と三味線弾きが、古靱清六のテープを勉強したら、家元制度はなくても古靱清六風に芸風が統一され、どこ土地で

会があつても、三味線弾きを連れて行かなくも、打合せもせずにすぐ床に上れるという便利もあつて、名古屋の大会へでも大阪の会へも横浜へでも、太夫独りで行けるといふ便利と自由とがあり、そうしたつかみ合いの高座ほど、真剣で熱心で気のはいることはありません。岡崎の幸兵衛と又右衛門のように諸流に亘り修業をするほど真剣になる面白くて楽しいことはありません。

師匠の中には録音テープでこのむずかしい義太夫のお稽古ができるものかなどと、食わず嫌いの勝手なことを云う人がありますが、諸芸の稽古は一流最高の大家につかぬと師匠以上に覚えても型が悪くて、弾くことも聞くこともできぬ田舎芸に固まっています。その点では私の考え方が正しかったので、日本中どこへ行っても私の義太夫は通用しますから、昔はどここの花柳界にも太棹芸者というのが居て楽しかったものです。有名な温泉地には義太夫の師匠が居て弾いて貰ったものです。そうして日本中どこでも義太夫が楽しめるようになると、義太夫を習うことが玄素とも楽しくなる。そのためには録音機とカセットの利用法、応用流行法以外はありません。かくして私は義太夫趣味にカセットの利用法をもっと積極的にすすめて、義太夫を流行させたいことの願い、これには三年五年と努力しないとこなうまいことにはなりません。稽古本に自己流の譜をつけて何十回もくり返せば、師匠がよいだけに出来上ったものも上々、他の芸術界でもみな沢山聞いて体で覚

1982. 8. 20

えて上手になるのです。カセット稽古は義太夫の種蒔きです。古柳清六の種蒔きを業界全部で努力すれば一年に三万枚ぐらいいは蒔けるでしょう。国民が太棹の音で耳を養えば、子供も学生も大人になってからみな義太夫趣味者となること必定です。御協力頂ければ私はカセット三万個を協会へ寄贈いたします。この種蒔きほど安く義太夫を流行させる方法はありません。芸術自体が国宝芸術で、芸術者が名人のみですからこれが行われないようでしたら義太夫は亡びる以外はない運命と、命がけで普及してみてください。真剣に協力してやろうではありませんか。

提案その二

次の提案は、この際急いで義太夫節保存会を社団法人にして永遠に国家的基礎の上に載せて、運営上にも便利、権威あるものとして頂きたいことです。

義太夫協会のできた頃は、たいしたお金も要らずに有志の人たちが少しづつ出合って社団法人ができたのですが、今は法人づくりを制限して、基金なども沢山積ませるようですが、現在は一千万円以上で許可になると聞いて居ります。

社団法人はお金だけでなく、人間が条件です。から総合指定の三十人を中心に、賛成協力者が三百人も応援して、一人当り一万円宛も寄附したら、五万、十万人もありましようから相当な基金もでき、不足は何とかなると思います。

義太夫界は昔から天狗ばかりで、人の足をひっぱることはするが、お・あ・しを出すことはいやがるくせがあるが、投資をしないで栄える道はありません。義太夫協会の会員名簿を見ても会員の数は相当居るので、こうした記事や協会からの依頼状なども出して、会員諸氏から一千元以上とか五千円以上とか、会員の意志にまかせて寄附金を仰いだらいかがでしょう。

協会の事業を進める上の費用を仙広さんが個人で負担しているのを見ていますが、協会も十年以上にもなり、重要無形文化財の総合指定を受けた人など、その名譽と責任の大きさなどを思うとき、この会を仙広師のお元氣なうちに社団法人にして、協会と共にしつかりした会にして頂くことを切望いたします。仙広師のお宅へ稽古に行つて私は何回もそれを話しますが、どうも協会の役員達や、三十人の総合指定保持者も奮起しそうなないので協会の会報に訴えて、役員・会員諸氏に御協力をお願い申し上げたいのです。

私が今回に限って姓名の上に、常任相談役などという協会の肩書きをつけたのは、こういう訳であります。私は常任どころか、協会からは殆んど正式の相談役会などを開くという御通知を受けたことはありません。一度私がこれを強く申し入れた時、新小松へ会員の有志を招集したことがありましたが、出席者は意外に少なかったがみな熱心に御意見を述べられたので、頼母しく拝聴致しました。協会という名も大きく、今回は義太夫が西の文

楽座に対し、多く女子部の盛んな東京を主体にした国宝芸術の総合指定を受けたのですから、総合という意味では、玄義共同で東京中心の義太夫節を、もっと盛んなものとしてゆかねばならぬこと、指定された三十名はもとより、その周囲の同好者・応援者も常に心を新しく、あの時の喜びに對しての責任も処理もつくされてない今日、急いで社団法人にして永遠の基礎を築いて置いて下さるよう切にお願い申す次第でございます。

☆ ☆ ☆

河野国声先生が以上のような二つの御提案「義太夫の種蒔き」「義太夫節保存会の社団法人化」をお寄せ下さいました。先生は、協会々員は余りにものんびりしている、会員全体の義太夫を愛するという意欲を見せて貰えば、法人化でも何でも片棒を担ぐとおっしゃって居られます。会員諸氏の巾ひろい御意見をお聞かせ頂ければ幸いです。

——編集部——

御寄附

河野 国声氏

新橋演舞場内の新事務所開設にあたり、河野国声氏が義太夫節保存会に百万円御寄附下さいました。お蔭様で、ワゴン・テール、収納棚等を備えることが出来ました。紙面を借りて、厚く御礼申し上げます。

協会の動き

〔昭和五十六年度〕

1月20・21日 義太夫協会公演会 若手によ

る、長兵衛権八、五條橋、

(三生指導) 発表 於本牧亭

1月30日 重要無形文化財保持者による義太

夫節演奏会(義太夫節保存会主催

義太夫協会後援・財団法人放送文

化基金助成) 於ガスホール

2月10日 昭和58年度民間芸術等振興費補助

金(青少年等芸術普及事業) 交付

申請書提出

10日 公演部々会

2月20・21日 伝承者研修発表会(義太夫節

保存会主催・義太夫協会後援

文化庁助成)

3月7日 '83都民芸術フェスティバル 第12

回邦楽演奏会に参加。揚屋・忠七

を演奏した。於第一生命ホール

3月8日 芸団協第8回芸能功労者表彰式

竹本土佐広が受賞 於東京会館

3月9日 定例理事会 於新小松

3月16・17日 第6回歌舞伎俳優研修生発表

会・第5回竹本講習生発表会

第6回竹本講習生試演会

於国立劇場

昭和57年1月より
昭和57年8月まで

3月18日 吉川会長と若手の懇談会 於須川

3月20日 昭和57年度民間芸術等振興費補助

事業計画書提出

3月20・21日 義太夫協会公演会 豊沢みど

りが芸団協助成新人奨励賞受

賞 於本牧亭

3月26日 名韻会学生大会 第34期義太夫教

室受講生が太十を発表した。指導

及び補導出演―竹本喜久太夫

於東横ホール

26日 義太夫教室第34期語りコース終了

3月27日 常務理事会 於アリス

3月31日 義太夫教室第34期三味線コース終

了 於銀座三丁目東町会事務所

〔昭和五十七年度〕

竹本土佐広 重要無形文化財保持

者(人間国宝)に認定される。

竹本越道古稀の会(義太夫協会後

援) 於三越ロイヤルシアター

昭和58年度民間芸術等振興費補助

金(青少年等芸術普及)実績報告

書提出

昭和57年度補助事業についてヒア

リング 於文化庁会議室

4月9日 芸団協邦楽実演家団体連絡会議

於芸団協会議室

4月10日 補助金額の確定通知

4月12日 公演部々会

4月20・21日 義太夫協会公演会 若手によ

る 万才・(重造指導) 五

條橋・(三生指導) 於本牧亭

4月29日 豊澤仙広副会長 勲四等瑞宝章

(文化財保存)を受賞

5月5日 竹本土佐広 人間国宝記念祝賀バ

ーテイー 於東京プリンスホテル

5月9日 学校巡演 文華女子高等学校

5月10日 定例理事会 於新小松

5月20・21日 義太夫協会公演会 20日は、

竹本土佐広の人間国宝認定。

および、芸団協芸能功労章

受賞を祝う会 21日、竹本朝

代初舞台 於本牧亭

5月27日 経理部々会 於事務局

5月31日 義太夫教室第35期開講(文化庁助

成) 於銀座三丁目東町会事務所

芸団協第16回通常総会於航空会館

昭和58年度民間芸術等振興費補助

事業計画書提出

事務所移転 松本ビルより新橋演

舞場に移る(3頁参照)

6月17日 義太夫協会公演会 於本牧亭

6月20日 教師のための義太夫節研修会(文

化庁助成) 於本牧亭

6月21日 昭和57年度定例総会 56年度事業

報告・決算報告(12頁参照) 57年

1982. 8. 20

6月29・30日	度事業計画・予算案が承認された 於文明堂築地店
7月8日	第50回女子部素浄瑠璃特別公演（人形浄瑠璃因協会主催、大阪市・大阪市教育委員会後援）東西の長老が顔を合わせた 於大阪三越劇場
7月20・21日	定例理事会 於新小松
7月27日	義太夫協会公演会 於本牧亭
8月10日	義太夫教室初級講習会閉講式 18名が終了、内皆勤賞7名 於銀座三丁目東町会事務所
8月20日	企画委員会 於事務局
8月30日	義太夫協会会報 第二十五号発行
1月30日	保存会の動き
2月20・21日	重要無形文化財保持者による義太夫節演奏会（義太夫協会後援・財団法人放送文化基金助成） 於ガスホール 伝承者研修発表会（義太夫協会後援・文化庁助成） 於本牧亭
3月9日	役員会 於新小松
4月20日	昭和57年度文化財保存事業補助金交付申請書提出 於新小松
5月10日	役員会 於新小松
5月25日	昭和58年度文化庁国庫補助事業計画書提出 於新小松
7月8日	役員会 於新小松

歌舞伎の義太夫＝竹本連中の後継者養成事業

竹本講習について（八）

この春、第五期竹本講習生の卒業公演と卒業式が行われ、竹本谷太夫（本名貝谷隆太郎・二十六才・南山大学出身）・竹本久磨太夫（吉田亨・二十四才・義太夫教室出身）・豊沢和雄（久恒和雄・三十才・義太夫教室出身）の三君が、無事二年間の講習を終了し、晴れて竹本連中の一員となりました。

この三君は、八月に四回催される国立小劇場若手歌舞伎勉強会に竹本として初出演する他、谷太夫君は八月初旬の文化庁巡業の「野崎村の前」他、久磨太夫君は九月の何れかに、和雄君は八月の浅草公会堂の「吃又」のツレ弾きが予定されています。

昨年末に鶴沢大昇さんが亡くなり、続いて太夫としてかけがえのない貴重な人である竹本藤太夫さんが亡くなり、愈々手薄になった現在新兵といえども三人加わったことは誠に心強いものがあります。又、今受講中の太夫三人（笠羽章彦・高橋尚夫・高橋幹明）と三味線一人（成田宏）の第六期講習生も仲々有望と見受けられます。教える人も習う人も、又お世話をする国立劇場養成課の方々も暑さの折大変なことです。頑張っていたきたいと思います。（つづく）

「歌舞伎 義太夫 竹本協会」の結成

先般来、歌舞伎義太夫の竹本連の人達が、親睦のみでなくもっと竹本一般の問題を考えようと組織造りをしていましたが、この度び竹本協会が結成され、挨拶状を各方面に出しました。代表は竹本扇太夫師であります。

国立劇場に於ける竹本講習が始まった昭和五十九年九月の時点で、太夫十二人の平均年齢が六十五才、三味線十一人の平均が六十二才、しかも引退同様の人三人を加えての話で、まさに竹本は風前の灯でありました。現在には約三十人に達し、その内講習生出身者が半数を占め、平均年齢はぐっと若返りました。

竹本講習開設のきっかけを作り、今も運営に協力している当義太夫協会としては、竹本協会がこの大切な若い後継者の育成を親身になつて考えてもらいたいと思っています。元来竹本のはとんどの人達が当協会々員でもありますので、当協会も従来にも増して後押しをするつもりであります。

歌舞伎 義太夫 竹本協会は

〒108 港区高輪二一四一九 三愛ビル内
(四四九) 五四一〇

1982. 8. 20

七十年前の寄席の雰囲気

相談役 豊沢 猿三郎

協会の編集部から私に続けて面白い話を書いて呉れとの事。私の様な脳味噌の少ない者の書いた物は、肩が凝らないと思います。脳味噌が軽いお蔭で七十余年一日も休まず芸道に励まして載いて居ります。それを心祝として何か催をと存じましたが、御多忙の皆様にお集りを願ひ小宴を催したつもりで、其の費用をNHK様と赤十字社様を通じ、お気の毒な方の為にお役に立てて戴きました。今後共生ある限り毎年続けさせて戴きたいと存じます。斯ういう寄手と有難く感謝致して居ります。御ひいき様のお蔭と有難く感謝致して居ります。御ひいき様と言へば、七十年前の寄席のお客様ですが、御定連と堂摺連の二種有りまして、御定連は魚河岸、兜町、銀座、米屋町、横山町辺りの大店の旦那衆。堂摺連は将来政治家、学者の卵の大学生で、寄席へ見えても自然肌合が違います。其の前に寄席の構造を申しませう。宮松亭様を例に取って話しましょう。客席正面八間、奥行八間、正面舞台六間、左右一間宛羽目、舞台はふだんは中央三間に御簾を垂れ、左右一間半宛は掛合の時開きます。舞台は高さ四尺、六間の大樑の横板で、正面上は破風造で、天井は桐材、舞台

床下に径三尺程の大かめを、太夫、三味線の下に据え、音響効果の為で、絶対品物等入れさせませんでした。客席は中央と左右にアヌミ(通路)が有り、二階は正面に十列の棧敷、東西に三列の棧敷が有ります。定連は舞台向う左の庭に面した席、堂摺連は舞台前、太夫の唾の飛んで来る所を早く行つて占領します。私の知っている限り七十年代前は蝶花形氏の時代で、車の後押し等もう有りませんでした。宮松亭様で、朝太夫師の一座で申しますと、夕五時に成りますとお茶子(女中)が木戸机の抽斗へ五十銭貨百枚、十銭銀貨二百枚を入れて来ます。二人目は木戸札をイッソク(百枚)積みまます。三人目が尺角の置畳と布団を板の間へ置きますと、若親方が席に着きます。舞台では御簾内が始まり、五時半には大親方(元関取宮の松)と五厘(芸能社)の宮田親方(春駒さんの実父)が軒先へ腰かけます。寒中でも羽織は着ません。舞台は序の口の太夫が始まります。お客様は一人も入って居らっしゃいません。生意気なのがチャラテンでもやろうなら、向う正面の大戸が開いて「馬鹿野郎、宮松の畳にヤ耳が有るぞ」と怒鳴られます。切前が終ると、お中入りの声と同時に茶子が、おせんにかき餅、アン

パンにカステラ、お茶は如何と三本のアヌミから一斉に出ます。髪をいちょう返しに結び、襟付の久留米紬、赤友禅の帯をかいの口に締め、赤の襷、棒縞の前掛けで、可愛い娘達でした。売切ると舞台上手から「有難う御座います」と申しますと、「一座高うは」と宵舐れが始まります。「まあった大切と致しましては、近頃河原の達引」と成ると、客席がゴーツとどよめきます。「朝太夫の堀川はいいなア、松太郎の猿廻しはたまらん」と大喜びです。宵舐れが終る頃、箱屋(床世話)の益さんが舞台上へ躊躇しますと客席は静かになり、舞台はチョンと柝が入り御簾が上ると、朝太夫師が見台を右脇に置き、扇子を前に、又松太郎師は三味線を前にお二人共平伏。客席は万雷の拍手で口上は聞えませんが、其の朝の都新聞の義太夫案内で知っていらっしやるのです。口上で名前を言われ顔を上げる迄拍手は続きます。見台が正面へ据えられ、東西東西でチョンと柝が入り、デーンと送りの三絃でお客様はもう催眠術に掛った様に無我の境です。お中入からデーン迄、判り切った事をくどくどいとお思いでしょうが、此の約十分間、五秒の隙も無く立板に油を流した様に行事がばこばれる事は詞に言い表せない昔の寄席の雰囲気なのです。初めの耳の破れる様な拍手も両師匠の出演中は絶対に致しません。稀に叩くと、叱ッと言われ田舎者扱いにされます。朝太夫師独特の「湊町」で「恥かしいやら トトテン 面目ないや、ラアア アアア」の舞台が暫く空白になる。此の時ば

かりは拍手を我慢してたお客様も爆発して、耳を聳し、節尻迄何も聞えませんでした。

「嬉しい事じゃないかいな」で調子が二本上り「皆々勇む喜びに」でまるで桜が満開の様なるさになり、お客様は「この一段で七十銭の値打が有るネ、又明晩来よう」と喜んでお帰りになります。下足の留さんと、大親方、若親方、宮田の新さんでお履物を出し、短時間でお帰しします。お客様が七分通りお帰りになりますと、千代さん、稲ちゃん、常ちゃん等普段着にきかえ、姉さんかぶり、裾を高くからげて布団の片付け。これも一つの寄席風景でしょう。朝太夫師、播磨太夫師、津賀太夫師、女義でも小清師匠等の座へは、堂摺連は見えませんでした。初代綾之助さんが両国立花亭で再勤の時、堂摺さんが学校を休んで、薬研堀の商店街からお不動様の辺り迄朝から行列で、交通巡査が出動したのも、夜始まる寄席なのに朝から行列したのは、見台の前の席が占領したかったのでしょう。次号はお客様のほめ詞、くさし詞（半畳）などをお話ししましょう。どうも長々しく御退席様でございました。



特別会員二口以上の方

(56年4月1日～57年3月31日扱い分)		
石川 善三様 (57年度2口)	一〇,〇〇〇円	
石塚 晃玉様 (56年度2口)	一〇,〇〇〇円	
井上 一二様 (56年度2口)	一〇,〇〇〇円	
内野アキヨ様 (56年度6口)	三〇,〇〇〇円	
景山 正隆様 (56年度2口)	一〇,〇〇〇円	
加藤 利一様 (56年度2口)	一〇,〇〇〇円	
加藤 道子様 (56年度2口)	一〇,〇〇〇円	
品川 欣司様 (56年度2口)	一〇,〇〇〇円	
菅原 邦夫様 (56年度6口)	三〇,〇〇〇円	
菅原 大常様 (56年度2口)	一〇,〇〇〇円	
高野 俊雄様 (56年度2口)	一〇,〇〇〇円	
都築 健一様 (56年度2口)	一〇,〇〇〇円	
藤田 昌子様 (56年度2口)	一〇,〇〇〇円	
松尾 武市様 (56年度2口)	一〇,〇〇〇円	
松前 重義様 (56年度2口)	一〇,〇〇〇円	
森 寿美様 (56年度2口)	一〇,〇〇〇円	
山本とみ子様 (56年度2口)	一〇,〇〇〇円	
和田 博様 (56年度2口)	一〇,〇〇〇円	

御寄附 (昭和56年度分)

一般・賛助会員の部	
内野アキヨ様	三一〇,〇〇〇円
都築健一(入船堂)様	一五〇,〇〇〇円
河野 国声様	一〇〇,〇〇〇円
竹本誉太夫師追善会様	一〇〇,〇〇〇円
久保 志方様	三〇,〇〇〇円
渡辺 兼造様	三〇,〇〇〇円
和田 博様	二五〇,〇〇〇円
高野 俊雄様	二〇〇,〇〇〇円
松尾 武市様	二〇〇,〇〇〇円
鈴木 一光様	一〇,〇〇〇円
若林 悦子様	一〇,〇〇〇円
菅 邦夫様	五〇〇,〇〇〇円
高橋 山月様	五〇〇,〇〇〇円
寺中 作雄様	五〇〇,〇〇〇円
平井おひろ様・島春栄様	五〇〇,〇〇〇円

事務所移転にあたり、和田博様より一万円頂戴いたしました。有難うございました。

女流義太夫若手自主公演

時間等制約のある本牧亭公演ではできないことをやってみようという、若手の自主的な勉強会が発足します。若手が順番に出演いたします。第一回は――

* 10月23日(土) 1時30分開演
 * 豊島区民センター6階ホール
 (池袋東口 三越ウラ)
 お申込み・お問合せは事務局まで
 新口村 竹本幸佳・竹澤圓生
 宿屋く大井川 竹本越孝・野澤錦鈴
 平太郎内く木遣音頭 竹本越若・豊沢幸純
 先代・政岡忠義 竹本綾一・野沢吉三

1982. 8.20

義太夫協会々報 第25号

社団法人義太夫協会 昭和56年度 収支決算報告書

勘定科目		収入の部	支出の部	差引損益
助成金	国庫補助金	4,100,000		
	放送文化基金	1,500,000		
	日本放送協会	200,000		
	芸団協	100,000		
	寄附金	3,895,000		
	会費収入	1,455,000		
	雑収入	631,284		
(小計)		11,881,284		
事業費	義太夫教室	1,019,800	3,912,765	△ 2,892,965
	学校巡演	420,000	2,334,540	△ 1,914,540
	教師のための講習会	91,000	2,322,010	△ 2,231,010
	協会公演会	1,311,600	3,542,670	△ 2,231,070
	慈善公演会	515,988	515,988	0
	東京都邦楽演奏会	591,550	436,560	154,990
	祖先祭	0	83,000	△ 83,000
	資料蒐集	0	83,410	△ 83,410
	研究室	0	614,000	△ 614,000
	会報	0	144,140	△ 144,140
	育成費	0	60,000	△ 60,000
	懇親会	225,000	224,500	500
	大会	423,400	2,208,020	△ 1,784,620
(小計)		4,598,338	16,481,603	△ 11,883,265
一般管理費	事務所費		2,856	
	家賃		585,500	
	事務・消耗品		72,110	
	事務費		76,690	
	給料・諸手当		1,338,500	
	交通費		156,240	
	通信費		349,655	
	交際・慶弔費		191,320	
	会議費		160,050	
	光熱費		46,161	
	倉敷料		120,000	
	印刷費		29,435	
	諸税公課		10,000	
	手数料		10,925	
	宣伝費		52,000	
	諸雑費		24,740	
	雑損		59,000	
(小計)			3,285,182	
合計		16,479,622	19,766,785	△ 3,287,163

新入会員御紹介 (敬称略)

おすすめします 芸団協資料

フランス芸能人の生活

……複職業化という事態は広範に拡がった。
……どんな分野であれいかに才能に恵まれた人物といえども、一定の水準に到達するためにはその人の全思考、全精力、その人生の時間のすべてを己が仕事に捧げなければならぬ。例えば、バスツールがもしも時間の大半を研究費をかせぎ出すためにさかなければならなかったならば、かれはあれだけ立派な研究ができたであろうか？ 又日曜画家で大画家はいない。というわけで一般化された複職業化が俳優自身の発展と演目全体の質にどんなに悪影響を及ぼしているかは想像にかたくない……

右は、芸団協発行「フランス芸能人の生活・今日から明日へ」の一部です。フランスも日本も、芸能人をとりまく環境の酷似していることに驚ろかされます。芸能実演家はいかに生きていったらよいのか、一般の人々は今の文化を無批判に享受していいものなのか、深く考えさせられる本です。

お問合せ、お申込みは事務局まで

NHKテレビ ハイカラさんに

娘 義太夫 登場

NHKテレビ、朝の連続ドラマ「ハイカラさん」(朝8時15分～8時30分 再放送・昼0時45分～1時)にドースル・ドースルと騒がれた頃の娘義太夫が登場。明治30年代末の寄席風景が再現されます。協会の若手正会員が協力出演していますので、9月8日(水)～11日(土)の画面をお楽しみに――

〈寄贈〉

竹本広松様

SPレコード 十枚組
(若太夫・綱造 陣屋)

――お願い――

*御不用の三味線・パチ・コマがどこかに眠っていないでしょうか。毎年卒業していく義太夫教室の生徒は元より、プロの間でも道具不足に悩んでいます。

*協会所蔵のSPレコードをテープにうつす必要があります。どれも貴重な資料です。どなたかお手伝い頂けませんか。

*事務局から――中古のコピーを譲って下さる方はいらっしゃいませんか。小さな団体に一寸贅沢と思われそうですが、資料等コピーのたびにコピー屋さん迄走るのは、時間もお金も大変なのです。

住所(住居表示)変更(敬称略)

△改名

豊澤みどり改め 豊澤仙之助

豊澤朝子改め 豊澤仙雛

会員名簿発行

— 御協力お願い —

新入会員も増えましたので、来年を目
標に会員名簿を発行することにいたしま
した。つきましては、

* 住所(住居表示)、電話の変った方

* 電話新設・電話を登録していない方

* 入会希望の方

事務局まで御一報下さい(十月末日〆切)
(五四一) 五四七 一 月〆金 11〆4時

尚、広告欄もございますので、御希望の
場合は御相談下さい。

鶴澤寛乃佑師

名古屋市中芸術特賞受賞

名古屋市中住の鶴澤寛乃佑師が「永年にわ
たり優れた芸術創造活動を行い、かつ今年度
の活躍が顕著で、芸術文化の振興に大きな功
績があった」として、昭和56年度名古屋市中
芸術特賞を受賞されました。

10月2日(土)2時 名古屋中電ホール
にて記念リサイタルが行われます。

訃報

■木村紋治氏(賛助会員) 56年3月22日逝去

■浅井まつ氏(賛助会員) 56年秋逝去

■小原浦次郎氏(特別会員) 57年1月10日逝去

■富沢朝光氏(特別会員) 57年1月21日逝去

■高橋誠一郎氏(顧問) 57年2月9日逝去

(前芸術院院長、日本文化界の重鎮でいら
した先生は、協会法人化以来の顧問もお
ひきうけ下さいました。)

■大谷菊香氏(賛助会員) 57年6月23日逝去

■小林新吉氏(床世話) 57年7月10日逝去

(玄素ともに永年お世話になりました。箱
屋さんは減る一方です)

■久松保夫氏(芸団協専務理事)

(芸能人の地位向上、著作権の擁護等に精
力的にとりくんでおられた久松氏が6月
15日急逝されました。芸能実演家のリ
ーダーとしてかけがえのない方でした。)

御冥福を心からお祈り申し上げます。

編集後記

新しい事務所にも漸く慣
れましたが、何分にも地下
室ですから、松本ビルのみり採りの天窗を、
ときになつかしんでおります。25号は、これ
までで一番ページ数の多い会報になりました。
期せずして東西の昔の寄席の記事が揃いまし
たが、後々の資料となれば幸いです。資料と
いえば、NHKハイカラさんの娘義太夫も、
ビデオに撮っておこうと思います。